



地域医療の現場から

地域住民に寄り添い 信頼される医療を目指して

上天草市立教良木診療所
所長 國友 耕太郎



過疎化、高齢化が進む教良木地区

当診療所のある教良木地区は、上天草市松島町の山間部に位置します。春は桜、夏は蛍、秋は彼岸花がきれいで、静かな地域です。

人口は約1160人、高齢者人口約470人、高齢化率は約40%となっていて、他の地域と同様に過疎化や高齢化が進んでいる地域の一つです(平成26年4月1日現在)。

診療所の概要

- 設立年月：昭和46年6月
- 職員数：4人
(再掲) 医師1人、看護師2人、事務員1人
(平成26年12月1日現在)

派遣医が内科から外科まで幅広く診療

以前は、常勤の医師が診療所に定住し、診療を行っていたのですが、平成21年に上天草総合病院へ統合した後は、へき地医療拠点病院¹⁾である上天草市立上天草総合病院の医師とへき地医療支援病院²⁾の医師が毎日交代で外来診療を行っています。

通常の病院と同様に、高血圧や糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病の管理や上気道炎などの内科疾患から、外傷処置などの外科疾患まで幅広く診療しています。また週に1回、隣接する老人ホームへの往診も行っています。

総患者数は、平成23年度4228人、平成24年度4330人、平成25年度4315人となっています。また、医療保険別にみると、平成25年度は後期高齢者医療が2992人で総患者数の69.3%を占め、最多となっています。

救急時は拠点病院などと連携して対応

常勤の医師がいないために夜間や休日は当診療所では対応できませんが、救急時の教良木診療所への電話は、自動的に上天草総合病院につながるようになっていて、上天草総合病院と連携し、救急対応を行うことになっています。また、その他の高次医療機関とも連携し、救急医療体制の強化を図っています。

週1回の当番医ゆえの苦悩

私自身は現在、教良木診療所では週に1回の診察しか行うことができない状況になってしまっています。通常であれば、急性期の期間だけは2、3日置きに診察しておきたいような患者さんなどがいますが、なかなかそのようなことができずに1週間後に再診となることが多くあり、その点が悔しい点です。また、週に1回の診察であるため、患者さん自身のことや、生活環境、家族環境などを把握するまでに時間がかかり、患者さん全体を診るということがなかなかできません。

今までも、そしてこれからも教良木地区の住民のことを第一に

山間部の診療所ですので、できることには限りがあります。患者さんの状態が思わしくない場合は、上天草総合病院をはじめとする外部の医療機関に患者さんの相談や紹介を行ったり、外部の医療機関と連携を取りながら、患者さんにとって、より良い医療を提供できるように心掛けています。

診療以外に介護や健康相談など、教良木診療所は今後も地域の方々に寄り添い、信頼される医療を目指します。



診療所周辺の風景

1) 「へき地医療拠点病院」とは

無医地区等の住民を対象とした巡回診療やへき地診療所への医師派遣などを行う病院。県内には、山都町包括医療センターそよう病院、球磨郡公立多良木病院、上天草市立上天草総合病院がある。

2) 「へき地医療支援病院」とは

「熊本県へき地保健医療に関する協議会」において検討し、県で決定、指定された医療機関。無医地区および準無医地区の住民を対象とした巡回診療やへき地診療所への医師派遣などを自主的に行う。

(熊本県「くまもと地域医療ステーション」ホームページ <http://iryuu.pref.kumamoto.jp> より)